

令和7年度 徳島県公共事業評価委員会資料

【森林土木・保全課】

林道開設事業

広岡池ヶ谷線【番号4】 檜尾阿佐線【番号5】

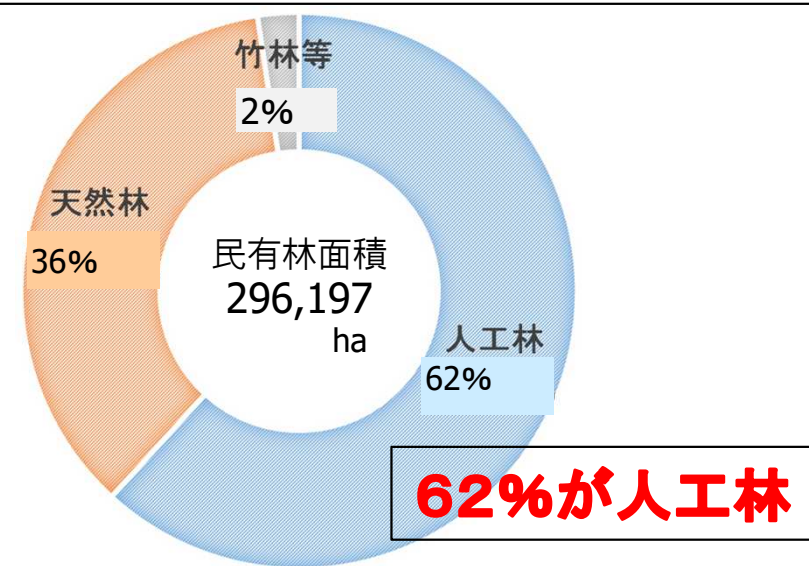
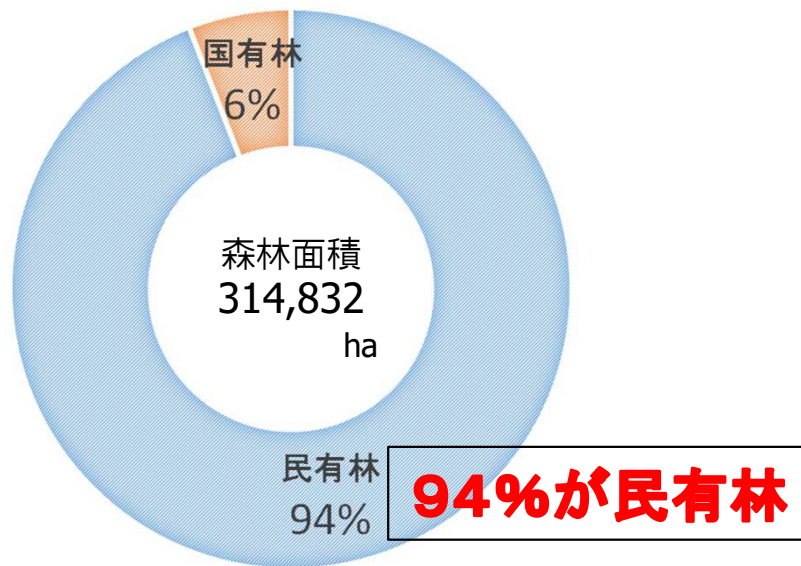
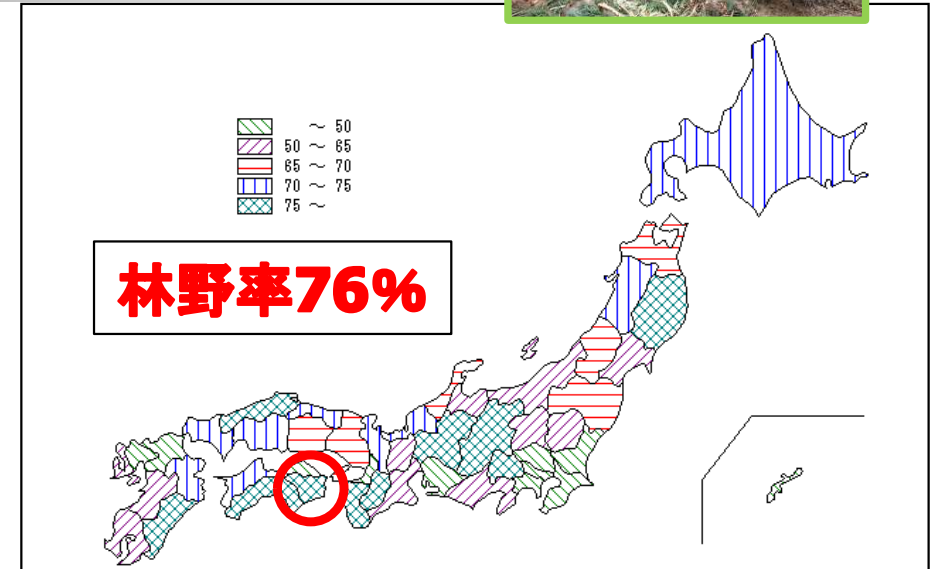
徳島県の森林・林業について

(1) 主要指標



項目	単位	全国	徳島県	順位
森林面積	ha	25,024,810	314,703	29
国有林	ha	7,656,573	18,388	34
私有林	ha	17,368,237	296,315	25
林野率	%	66.4	75.5	9
人工林率	%	40.3	60.5	9

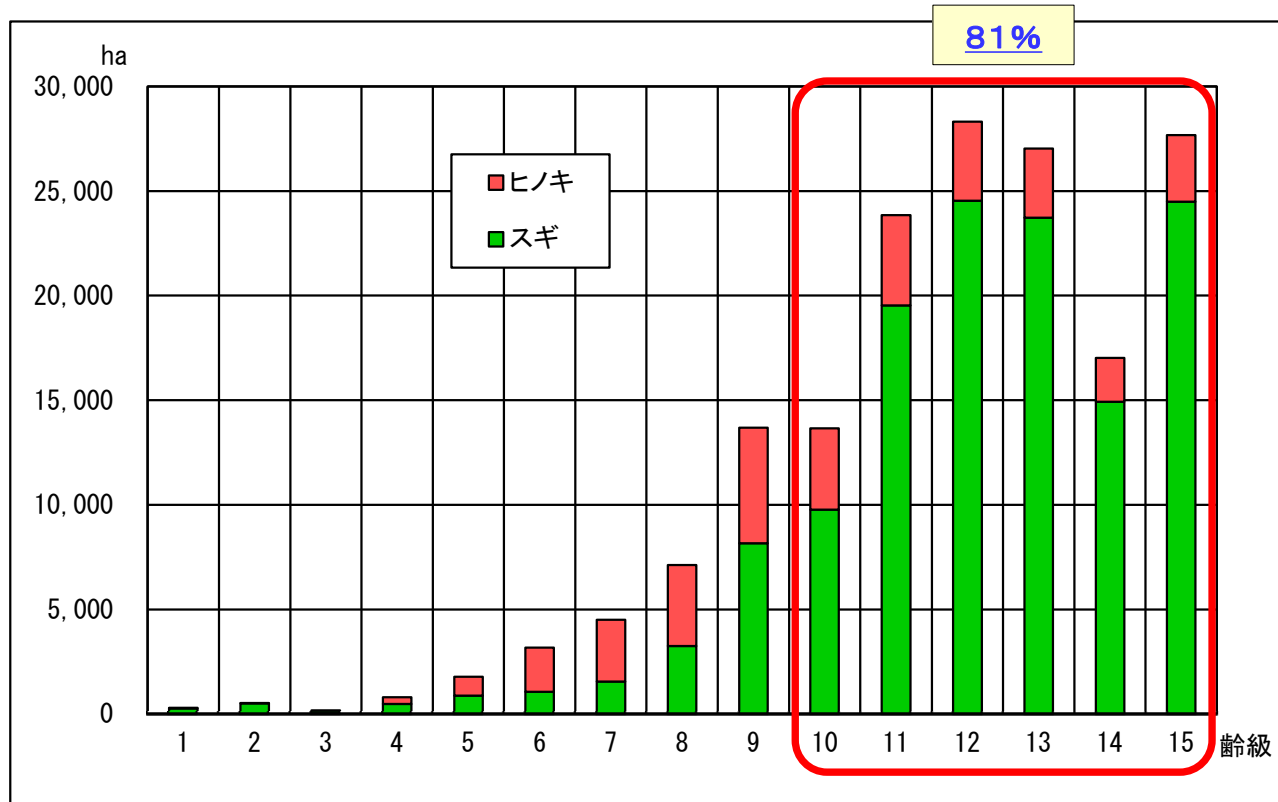
※ R7年度版「みどりの要覧」より



徳島県の森林・林業について

(2) 森林資源の状況

スギ、ヒノキ人工林齢級構成



人工林面積の約8割が
10齢級(46年~)以上

収穫期

徳島県の森林・林業について

(3) 徳島県森林・林業施策の推進について

施策の体系

- 1 多様な人材の育成・確保
- 2 森林の価値を高めるDX・GXの推進
- 3 成熟した資源の利用
- 4 多様な主体による森林の保全・管理

対象期間
令和6年度～
令和10年度

主な成果指標

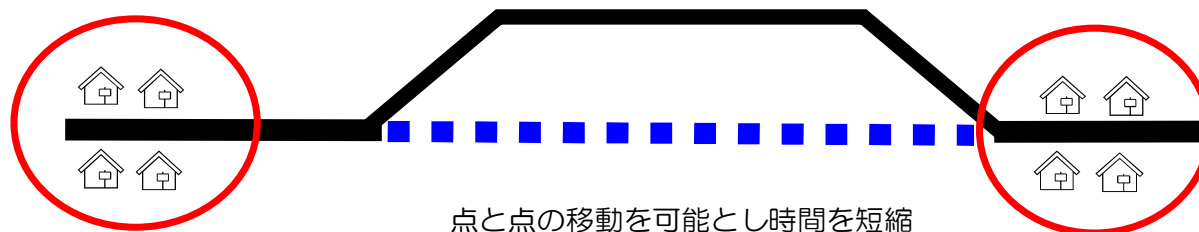
	現状（令和4年度）	目標（令和10年度）
・新規就業者数	42人	200人
・県産材の生産量	41.8万m ³	60.0万m ³
・県産材の海外輸出額	350百万円	400百万円
・Jクレジットの販売量	253 t	2,000 t



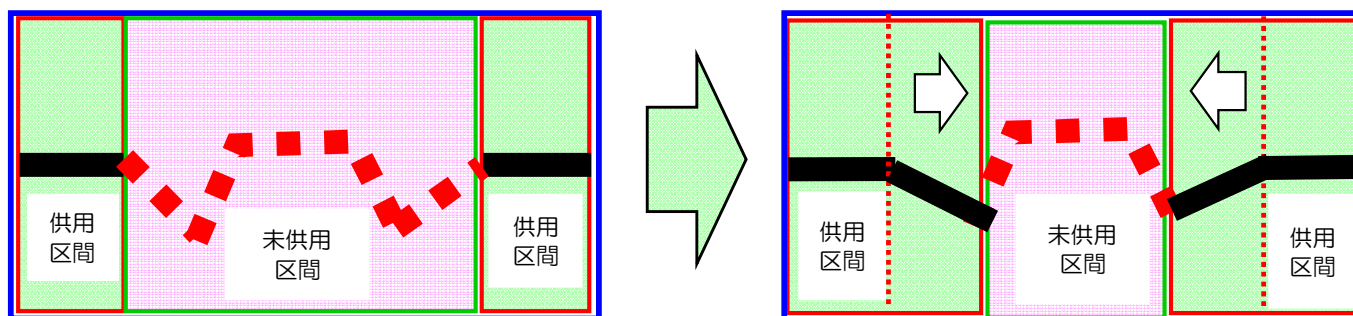
林道事業の概要

(1) 林道整備の目的と発揮される効果①

国道・県道等（目的：つなげて効果を発揮）移動時間の短縮、街と街を最短距離で接続



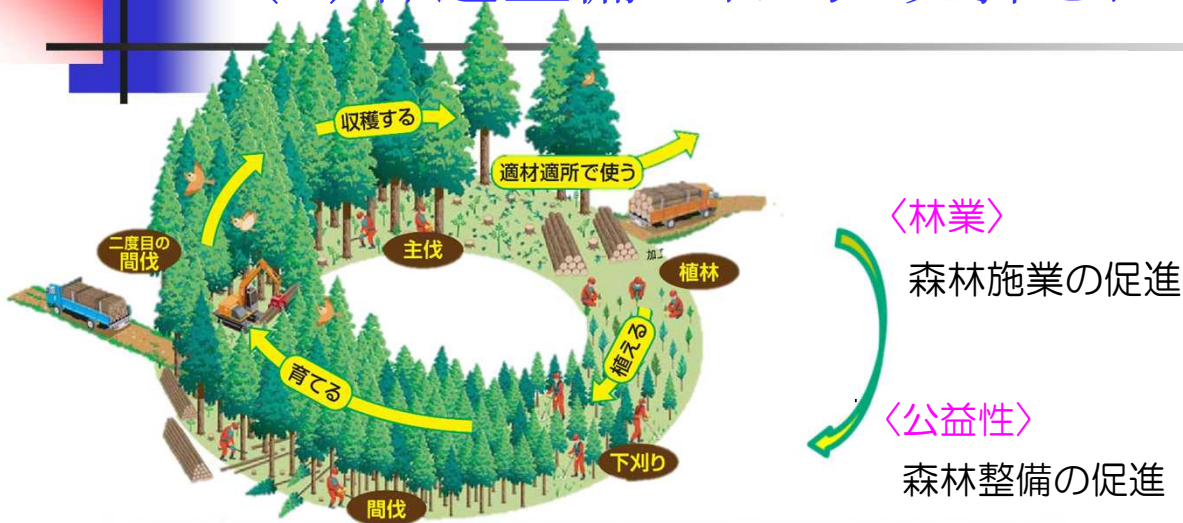
林道（目的：延伸する毎に効果を発揮）森林資源の利活用、森林整備の促進



伸びる事で森林整備の可能なエリアが拡大

林道事業の概要

(2) 林道整備の目的と発揮される効果②



林道整備による効果

- 森林施業の低コスト化
- 木材生産・輸送の効率化
- 持続的な森林経営

特定の受益者

- 森林資源の循環利用
- 森林の公益的機能が発揮

不特定の受益者



- ①洪水防止
 - ②流域貯水
 - ③水質浄化
 - ④土砂流出防止
 - ⑤土砂崩壊防止
 - ⑥温室効果ガス吸収 (吸収源対策)
- (水源の涵養)
- (山地保全)

林道事業の概要

(3) 整備方針

効果的な施業に繋げる配置



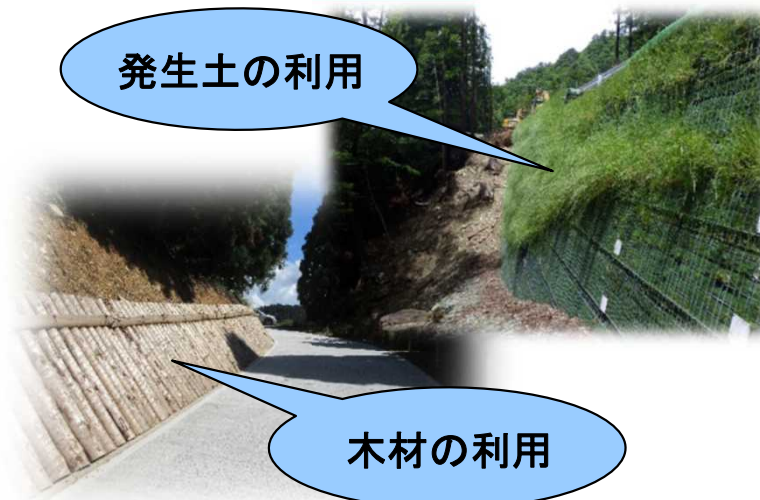
環境に負荷をかけない線形



地形に沿った線形

環境配慮型の構造

発生土の利用



木材の利用

林道事業の概要

(4) 林道が担う役割 ～林道の開設効果～

森林整備の促進

林業コストの削減

作業の効率化

労働負荷の軽減

生活道

緊急時の
避難・迂回路

林産物の栽培

森林へのアクセス



林道開設事業の再評価

○今回再評価（林道開設事業：全2件）

共通事項

- ・森林の有する多面的機能を発揮させるとともに、持続的な森林経営の実現に向けて、森林施業や木材等の輸送を効率的に実施するため、林道を基幹とした路網整備を実施している。
- ・関係する市及び森林所有者等地元の関係者からは、事業の早期完成を要望されている。

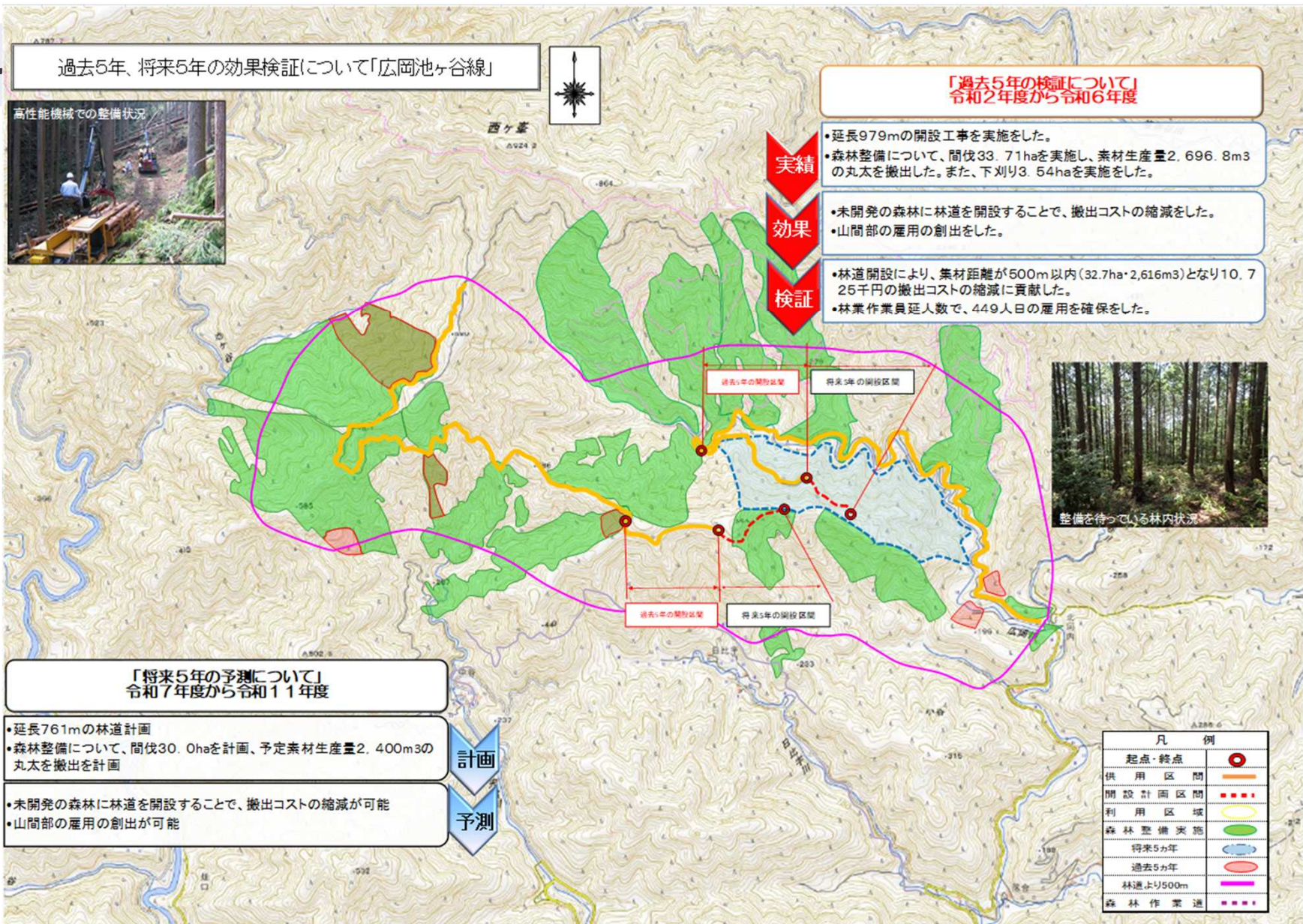
番号	路線名	箇所名	計画事業費 (百万円)	利用区域面積 (h a)	事業内容 (計画延長)	計画初年度	計画完了年度	進捗率 (%)	B / C	代表説明
4	広岡池ヶ谷線	海陽町	600	137	1,740	R 2	R 1 1	56	1.03	○
5	檜尾阿佐線	三好市	400	132	700	R 2	R 1 1	31	1.23	



令和7年度 徳島県公共事業評価委員会

4. 林道 広岡池ヶ谷線

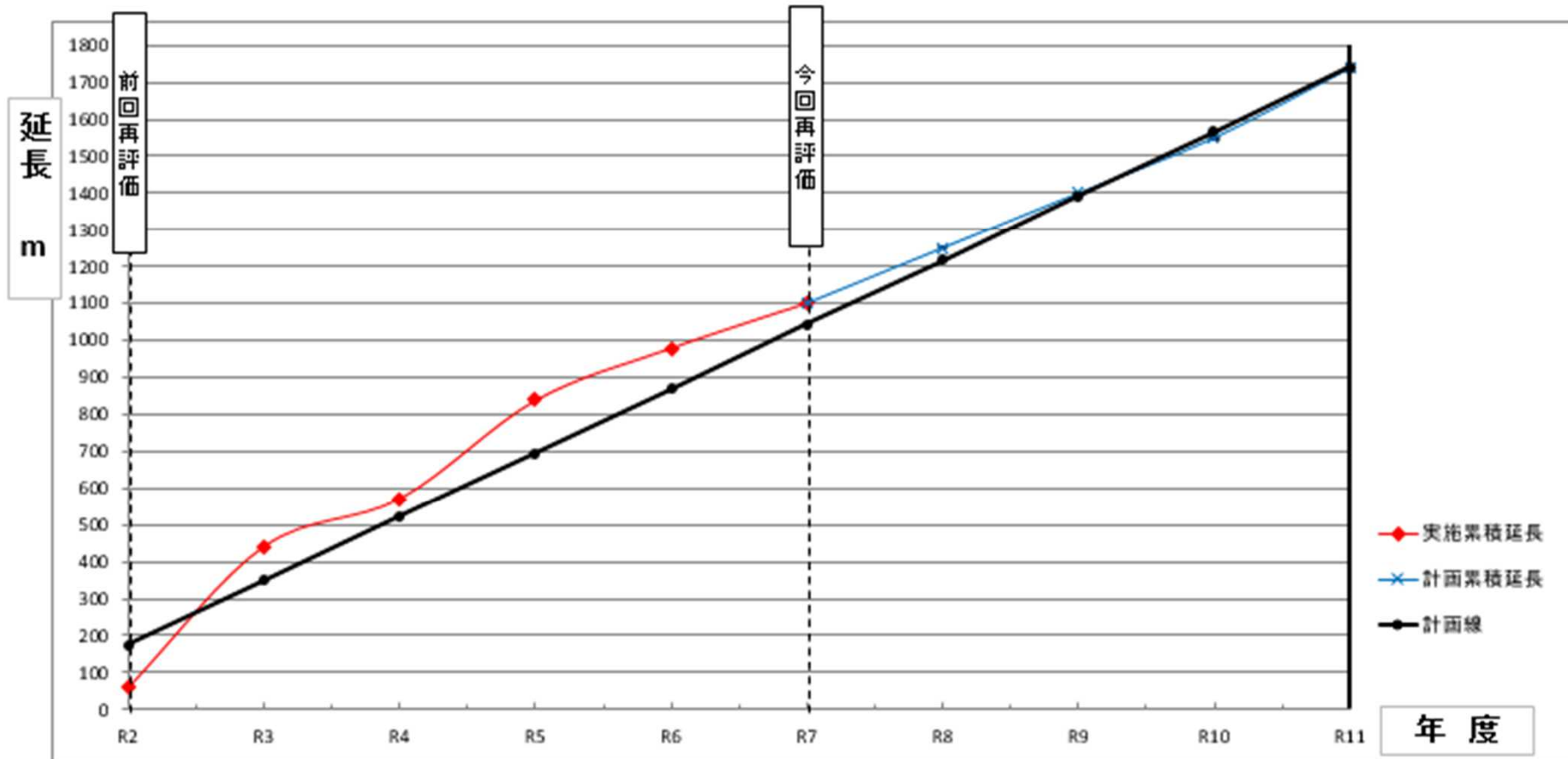
過去5年・将来5年について「広岡池ヶ谷線」



林道 広岡池ヶ谷線

(2) 進捗状況

林道開設事業(森林基幹道) 広岡池ヶ谷線



林道 広岡池ヶ谷線

(3) 新たな工区(予定地)について



林道 広岡池ヶ谷線

(4) 木材生産

枝払い・玉切作業



大型のトラックにて搬出



集材作業

林道 広岡池ヶ谷線

(5) 森林整備の促進に向けた取り組み

森林施業に必要な作業道の接続路や作業ポイントの設置場所等について、関係者から意見を収集し、今後の測量計画に反映させる。



林業事業者等を対象とした林道整備計画の情報共有



林業事業者、計画地の森林整備計画の意見交換

費用対効果

総 便 益

- 1 木材生産等経費縮減便益
- 2 木材利用増進便益
- 3 木材生産確保・増進便益
- 4 森林管理等経費縮減便益
- 5 森林整備促進便益

6億330万5千円

総 費 用

事業効果発現に必要な費用

5億8,726万8千円

$$\text{総便益} / \text{総費用} = 1.03$$

■ 今後の対応方針（案）

事業継続

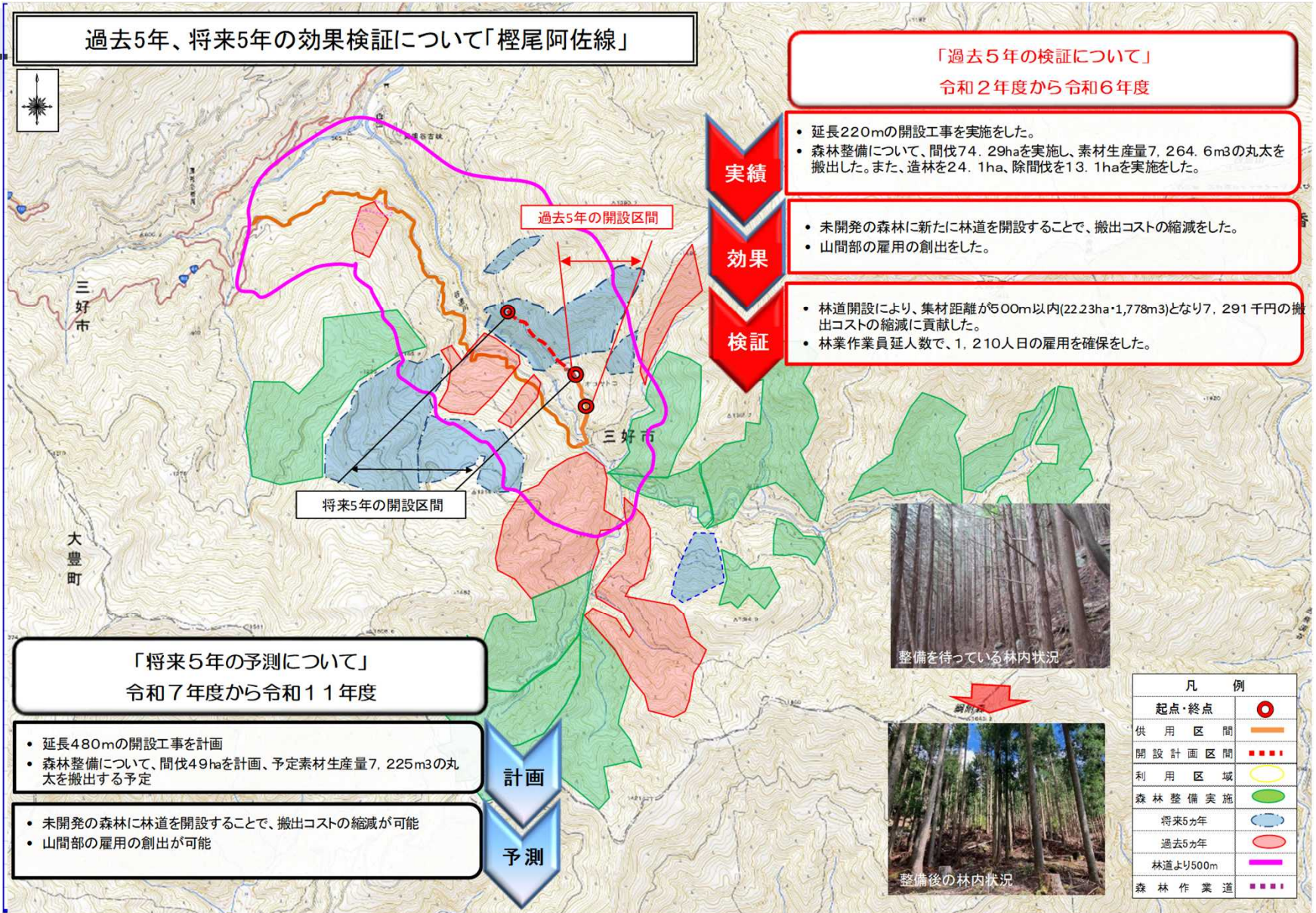


令和7年度 徳島県公共事業評価委員会

5. 林道 檜尾阿佐線

過去5年・将来5年について「樫尾阿佐線」

過去5年、将来5年の効果検証について「樫尾阿佐線」



「過去5年の検証について」 令和2年度から令和6年度

実績
効果
検証

- 延長220mの開設工事を実施した。
- 森林整備について、間伐74.29haを実施し、素材生産量7,264.6m³の丸太を搬出した。また、造林を24.1ha、除間伐を13.1haを実施した。
- 未開発の森林に新たに林道を開設することで、搬出コストの縮減をした。
- 山間部の雇用の創出をした。
- 林道開設により、集材距離が500m以内(22.23ha・1,778m³)となり7,291千円の搬出コストの縮減に貢献した。
- 林業作業員延人数で、1,210人日の雇用を確保をした。

「将来5年の予測について」 令和7年度から令和11年度

計画
予測

- 延長480mの開設工事を計画
- 森林整備について、間伐49haを計画、予定素材生産量7,225m³の丸太を搬出する予定
- 未開発の森林に林道を開設することで、搬出コストの縮減が可能
- 山間部の雇用の創出が可能

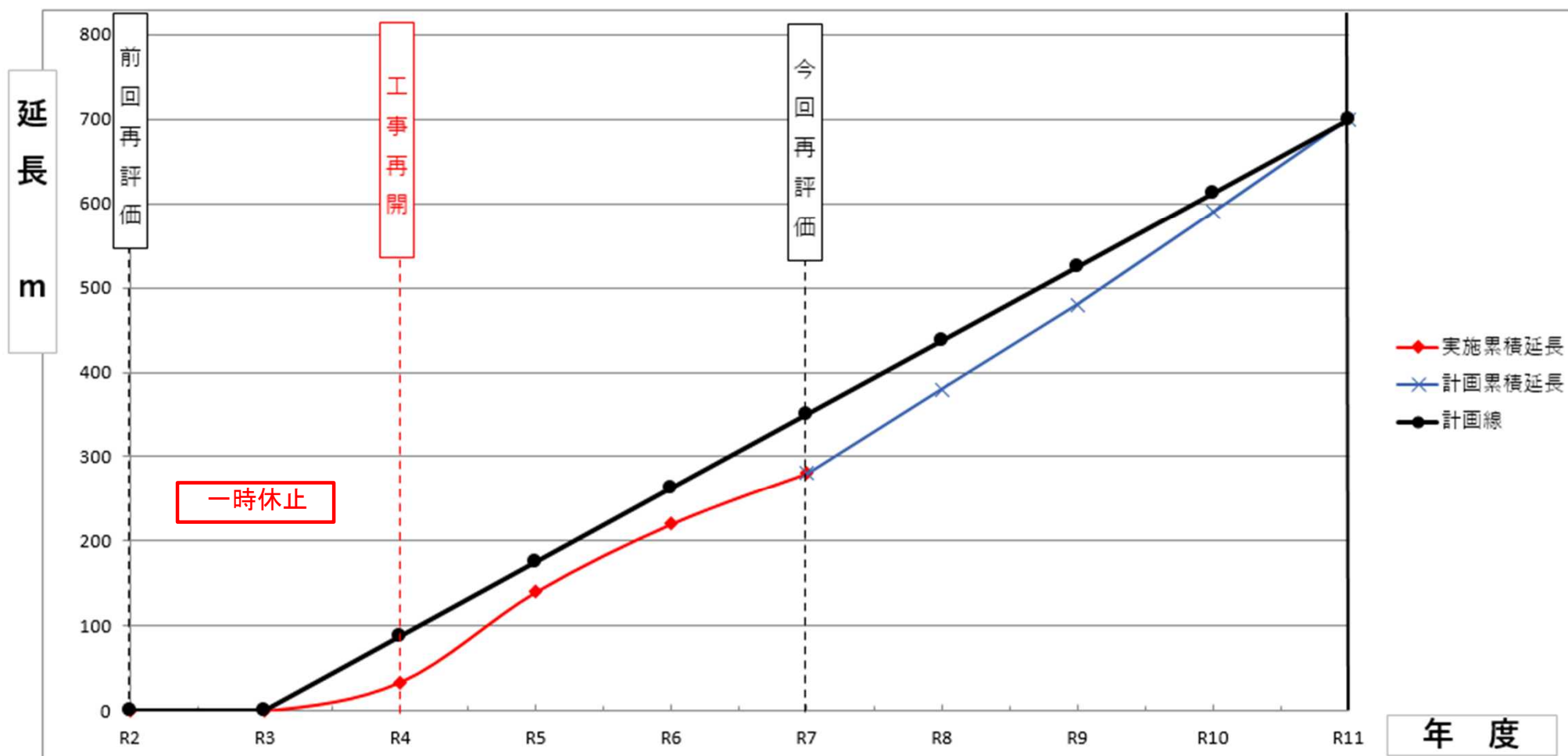


凡 例	
起点・終点	●
供用区間	—
開設計画区間	⋯
利用区域	○
森林整備実施	●
将来5カ年	○
過去5カ年	●
林道より500m	—
森林作業道	⋯

林道 檜尾阿佐線

(2) 進捗状況

林道開設事業(森林基幹道) 檜尾阿佐線(10年)



林道 檜尾阿佐線

(3) 開設済み区間の森林整備状況



林道沿線で集材



作業道

整備状況

林道から作業道を開設

作業道

林道



費用対効果

総 便 益

- 1 木材生産等経費縮減便益
- 2 木材利用増進便益
- 3 木材生産確保・増進便益
- 4 森林管理等経費縮減便益
- 5 森林整備促進便益

4億4,799万7千円

総 費 用

事業効果発現に必要な費用

3億6,302万6千円

$$\text{総便益} / \text{総費用} = 1.23$$

■ 今後の対応方針（案）

事業継続